

下 水 道 課

管 理 係

1 多摩川上流流域下水道

流域下水道は、公共用水域の水質の保全をする大きな目的として、市町村が設置する公共下水道を接続して、広域的な根幹下水道であり、重要な役割をする。

49年度事業概要

種 別	工 事 概 要	金 額
多摩川上流幹線	内経 1,350～2,100 1次巻 3,467m 2次巻 470m	1,640,000千円
処 理 場	土木工事 汚水処理施設 汚泥処理施設 電気機械設備 用地購入費	1,360,000
事 務 費	排水施設、処理場	254,000
合 計		3,254,000

福生市の負担金

内 訳	負 担 金 額
主要排水施設建設	95,626千円
終末処理場建設	37,057
事務諸経費	19,714
前年度過不足負担額	△14,857
合 計	137,540

2 青梅、羽村、福生地区都市下水路

都市下水路の建設事業は、昭和36年5月23日青梅市、羽村町、福生町の当時1市2町により一部事務組合を設置し、昭和36年10月27日に計画決定及び事業決定がなされ、直ちに事業に着手し、昭和42年をもって、7年にわたる事業を完了した。

これにより、水質検査所の技術職員により、関連工場汚水の浄化のため、定例的、あるいは抜き打ち的に検査を実施し、口頭での申し入れ、あるいは改善命令により、改善等を実施した。なお、本年度は、茨城県の公害技術センターに行政視察を実施した。

都市下水路組合の概要

- (1) 組合設立 昭和36年5月23日
- (2) 構成団体 青梅市、羽村町、福生市
- (3) 都市下水路の規模
 - ア 路線延長 7,377.26メートル

形式	寸法	延長
短形渠	3.3 × 3.3 m	832.62 m
〃	3.0 × 3.0	1,250.64
〃	3.0 × 2.1	1,123.0
〃	2.4 × 2.4	346.20
〃	2.1 × 2.1	408.00
管渠	2.0	153.90
柵渠	3.0 × 3.0	4,183.60
吐口	$\frac{5.34}{3.45} \times 3.15$	90.00

- イ 排水面積 西武蔵台排水区 977ヘクタール
- ウ 執行年度 昭和36年度～昭和42年度
- エ 事業決定 昭和36年10月27日
建設省告示第2413号
- オ 都市下水路の指定 昭和45年2月10日

(4) 水質検査所の規模

- 総面積 187.50平方メートル
 - 事務室・検査室 160.00平方メートル
 - 車庫 27.50平方メートル
- 構造 鉄骨平屋造り
- 昭和49年度関係市町分担金
 - 青梅 2,373.2千円
 - 羽村 1,562.2

3 多摩川上流流域下水道促進協議会

本会は、東京都の施行している多摩川上流流域下水道事業の早期完成と、経済的効率の事業推進を図るため、昭和47年立川、青梅、昭島、福生、武蔵村山、羽村、瑞穂の7市町により発足をした。

本年度の主な事業は、次のとおり。

- 7月16日 流域下水道事業促進要望（建設省都市局下水道部長）
- 8月20日 多摩川上流流域下水道事業負担金に係わる基地分負担金の申請（東京防衛施設局）
- 11月7日 相模川流域下水道右岸終末処理場視察（神奈川県平塚市）
- 11月28日 多摩川上流流域下水道の処理場用地買収費の予算計上について（東京都知事ほか）
- 12月25日 流域下水道事業整備促進に関する要望書（建設省ほか）

多摩川上流流域下水道事業負担金に係わる基地分負担金

管		渠		
排除面積	基地面積	基地比率	市分担額	基地分
918 ha	329 ha	358 %	87,288 千円	31,249 千円
17	0	0	475	0

処 理 場					
排除人口	市汚水量	基地汚水量	基地比率	市分担額	基地分
61,000人	27,000 m ³	4,777 m ³	17.6%	20,224 千円	3,559 千円

合 計	
市分担額	基地分
107,987 千円	34,808 千円

- 注 1 管渠欄の上段は多摩川上流幹線、下段は残堀川幹線を示す。
 2 基地内計画人口密度 33人
 3 計画汚水量 440リットル

4 福生市下水道事業受益者負担に関する条例

下水道整備を計画的に早期に推進させるためには、その財源の確保が最も重要な問題であり、都市計画法に基づき、受益者負担金制度を採用して、安定した建設財源を確保し、負担の公平を図り、もって、事業の早期完成を必要とするため、昭和49年9月定例市議会において、議決され、制定をした。

経 過

年月日	内 容	場 所
49. 3. 9	市内部協議	市 役 所
3. 18	建設委員会協議会説明	"
3. 19	町会長協議会説明	"
3. 27	農業委員会説明	"
4. 3	市議会全員協議会説明	"
4. 4	市民への説明（本1，本2，本3）	"
4. 9	"（中央，本6，長1，長2）	一小体育館
4. 11	"（原ヶ谷戸，牛1，牛2）	福 社 会 館
4. 12	"（加1，加2，永田）	四小体育館
4. 15	"（本7，本8）	六小体育館
4. 17	"（志茂2）	睦 会 館
4. 18	"（志茂1）	中福生会館
4. 23	"（鍋1，鍋2）	二小体育館
4. 25	"（熊牛，福栄，富士見台，玉川台，武蔵野）	福 社 会 館
4. 26	"（内出，南）	五小体育館
"	生活学校への説明	福 社 会 館
5. 21	福生都市計画審議会説明	市 役 所
5. 22	官・公・署 説明	"
6. 26	市民への説明	福 社 会 館
6. 28	" 第1期事業認可区域	埼 玉 銀 行
7. 1	" ○本1，本2，本3，中央，本6，志茂2，長1，長2……全域	福 生 農 協
7. 3	" ○牛1，牛2，熊牛，原ヶ谷戸，志茂1，本7，本8，永田，加1……一部	西友ストア一

5 起債の状況

(1) 起債許可状況

事業名	許可額	資金区分			
		大蔵省	公営企業 金融公庫	埼玉銀行	東京都
流域下水道事業	109,700 ^{千円}	69,000 ^{千円}	12,100 ^{千円}	14,600 ^{千円}	14,000 ^{千円}
公共下水道事業	56,000	40,000	6,000	10,000	
合計	165,700	109,000	18,100	24,600	14,000

(2) 起債額の状況

区分		借入元金	償還済元金	未償還元金
目的別	流域下水道事業	259,300 ^{千円}	0	259,300 ^{千円}
	公共下水道事業	71,000	0	71,000
合計		330,300	0	330,300
借入先別	大蔵省	222,400	0	222,400
	公営企業金融公庫	34,300	0	34,300
	埼玉銀行	24,600	0	24,600
	東京都	49,000	0	49,000
合計		330,300	0	330,300

計 画 係

1 福生市公共下水道計画

下水道は、本来近代都市の根幹的な施設であり、環境衛生の向上、河川や海水の汚濁防止に不可欠のものとし、しかも、排水が多摩川に注ぎ飲料水として使用されているものであり、水質保全のためにも、下水道施設の早急な整備が必要である。

そこで、本市においても、多摩川左岸多摩川流域下水道の多摩川上流幹線、羽村幹線及び残堀川幹線の事業認可に伴い、流域関連公共下水道としての公共下水道の事業化を行って、都市環境の整備を図るため計画を策定した。

計画の概要（昭和48年度～昭和60年度）

項 目	数	値	摘 要
計画処理区域		991.4 ha	全区域自然流下
計画排水区域		953.9 ha	合流区域を除いた面積
計画処理人口		61,000 人	流域下水道計画
下水排除方式	分 流 式	953.9 ha	
	合 流 式	37.5 ha	
家庭汚水量	日平均汚水量	360 ℓ/日/人	それぞれ地下水量 40 ℓ含む。
	日最大 "	440 "	
	時間最大 "	640 "	
降雨強度式	$I = \frac{5000}{t+40}$ (50 mm/hr)		
流出係数		0.5	

第1期事業概要（昭和48年度～昭和52年度）

項 目	数	値
予定処理区域及 び予定排水区域	汚 水	131 ha
	雨 水	126.56 ha
管 渠 の 延 長	汚 水	38,025 m
	雨 水	20,797 m

2 福生市公共下水道事業航空写真測量

福生市公共下水道計画に基づき、昭和60年度完成を目指し、事業を推進させるためには、これに見合う、実施設計が必要である。

このため、本年度において、将来の実施設計に必要な航空写真測量を実施した。

航空写真測量委託により、完成した報告書は、下水道の実施設計を初め、将来必要とする、下水道台帳の作成、都市計画道路、一般市道の計画、あるいは、福生市の空地の調査、水道台帳の整備等にも使用することができる。

事業の内容

航空写真測量	666 ha	下水道計画区域のうち 横田基地を除いた区域
図 化	131 ha	第1期公共下水道事業 認可区域

工 事 係

1 公共下水道

多摩川上流流域関連福生市公共下水道事業計画に基づき、快適で衛生的な都市環境づくりを目指すため、次の工事を行った。

名 称		場 所	金 額	内 容	
福 生 南 部 第 一 処 理 分 区	その 1 工事 (汚水管埋設)	志茂及び熊川地内	千円 1 2,6 3 0	管布設 ∅250mm マンホール 汚水ます	368.75m 1 3箇所 2 6箇所
	その 2 工事 (汚水管埋設)	牛浜地内	1 4,8 7 0	管布設 ∅250mm マンホール 汚水ます	608.90m 3 1箇所 5 7箇所
	その 3 工事 (汚水管埋設)	志茂地内	1 8,4 5 0	管布設 ∅250mm マンホール 汚水ます	700.85m 2 8箇所 8 2箇所
	その 4 工事 (汚水管埋設)	志茂地内	1 9,9 0 0	管布設 ∅250mm マンホール 汚水ます	829.90m 2 9箇所 8 3箇所
	その 5 工事 (汚水管埋設)	志茂地内	9,8 0 0	管布設 ∅250mm マンホール 汚水ます	363.30m 1 7箇所 6 0箇所
	その 6 工事 (汚水、雨水管埋設)	牛浜地内	9,1 6 0	管布設 ∅300mm ∅250mm マンホール 汚水ます 雨水ます	150.55m 127.50m 1 4箇所 1 8箇所 2 0箇所
市道第1105号線 雨水管取付工事	志茂5番地先	6 4 0	雨水管取付工事	1箇所	

2 横田飛行場周辺排水路事業

横田飛行場周辺 地域の水害を防止するために、次の事業を行った。

(中央幹線排水路)

名 称	場 所	金 額	内 容
中央幹線排水路新 設工事	大字福生地内	千円 1 1 7, 3 0 0	管布設 $\varnothing 2,300mm$ 152.47m $\varnothing 2,000mm$ 282.75m マンホール 6箇所
中央幹線支線排水 路新設工事(その1)	大字福生地内	4 5, 9 0 0	管布設 $\varnothing 1,500mm$ 287.92m マンホール 4箇所
中央幹線支線排水 路新設工事(その2)	大字熊川地内	9, 6 0 0	管布設 $\varnothing 700mm$ 95.0m $\varnothing 600mm$ 105.0m マンホール 6箇所 集水ます 15箇所
中央幹線支線排水 路新設工事(その3)	大字福生地内	6, 3 7 0	補償費一式

(武蔵野幹線排水路)

名 称	場 所	金 額	内 容
武蔵野幹 線排水 路新設 工事	第1工区	千円 9 9, 5 0 0	工事延長 313.8m 開渠築造工 $\sqcup 3,600mm \times 6,000mm$
	第2工区	8 4, 8 0 0	工事延長 280.0m 開渠築造工 $\sqcup 3,600mm \times 6,000mm$
	第3工区	9 0, 7 0 0	工事延長 310.0m 開渠築造工 $\sqcup 3,600mm \times 6,000mm$

(本工事については、48～49年度の2年事業である。)

名	称	場 所	金 額	内 容
武蔵野 新設工事 幹線排水路 (その1)	第1工区	大字熊川地内	570,000 <small>千円</small>	シールド工事 ϕ 3,500mm 247.7m
	第2工区	大字熊川地内	670,000	シールド工事 ϕ 3,500mm 247.0m
	第3工区	大字熊川地内	491,000	シールド工事 ϕ 3,500mm 279.5m
武蔵野 新設工事 幹線排水路 (その2)	第1工区	大字熊川地内	97,480	シールド工事 ϕ 3,500mm 75.2m
	第2工区	大字熊川地内	98,100	シールド工事 ϕ 3,500mm 68.0m
	第3工区	大字熊川地内	232,310	シールド工事 ϕ 3,500mm 68.2m

(本工事については、昭和49～50年度の2年事業である。)